

# 「福島原発震災に関する研究フォーラム」

## 2020 年度の活動報告

共同世話役 清水 奈名子・高橋 若菜

宇都宮大学では、原発事故が発生した2011年4月から国際学部の複数名の教員を中心として、放射線被ばくに比較的脆弱とされる乳幼児・妊産婦を抱えるご家族の支援実践活動、調査活動、アドボカシー活動を2015年3月まで展開してきました（福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト）。この活動を通じて、私たちは、原発事故が決して福島に固有の局地的な危機ではないと痛感してきました。むしろ、過去の国内外の環境災害にもみられたように、犠牲を一部の社会グループに押付ける構造的な問題と観察されます。そのような観点から、原発震災の記録を残すことは、地域社会、日本社会、そして国際社会への社会貢献であり、また後世への“社会的責務”でもあると考えるようになりました。

こうした共通認識から、2015年度に私たちは、原発震災の記録を残し、問題提起を続けることに重きを置く活動を行うために「福島原発震災に関する研究フォーラム」を立ち上げました。福島原発震災が社会にどのような影響を及ぼしたかを構造的な視座から捉え記録し、社会に広く公表・発信していくことをめざしています。また、原発震災による被災者の困難は長期化していることをふまえ、現実の政策課題の提言につながるような研究をめざしています。

事故後10年目を迎える2020年度は、COVID-19によるパンデミック禍の下での調査研究活動を余儀なくされました。2020年3月11日という、原発事故から9年目の日に世界保健機関（WHO）がCOVID-19をパンデミックであると宣言したこともあり、毎年3月前後に集中して行われる原発事故に関する様々な行事も、中止

が相次ぎました。研究フォーラムの関係者の間でも、予定していた研究調査活動や講演、研究会等が中止されるなか、オンラインツールを利用した公開授業、オンライン映画上映会、公開シンポジウムの開催を実現し、社会的発信を続けてきました。ただえさえ風化が進んでいる原発事故が、パンデミックの影響を受けて、さらに忘却が進むことのないようにするためにも、こうした活動は今後も続けていく必要があることを痛感した1年となりました。

前年度に引き続き2020年度も、学会報告、招待講演、論文等の公表を通じて、これまでの研究蓄積を社会に発信してきました。具体的には、パンデミックと原発事故の共通点に関する分析、環境正義の観点から原発事故被害の可視化が抱える問題の考察、また昨年に引きつづき、栃木県北の住宅地における土壌調査も実施しました。

またオンライン開催企画として、原発事故の教訓を伝える副読本や展示施設を巡る問題を考える公開授業や、子どもを守るために原発避難を選ばざるを得なかった女性たちの葛藤について考える映画「抱く ～HUG～」のオンライン上映会を共催し、学生や市民の皆さんとのワークショップも実施しました。いずれの企画も栃木県外並びに海外からの参加者があり、オンライン開催の利点を実感することができました。

さらに年度末には、茨城大学、東北大学の関係者と実施してきた、栃木県、茨城県、宮城県の自治体を対象にした、原発事故対応に関するアンケート調査の結果報告会を、オンラインでの公開シンポジウムとして開催する予定です。

## メンバー

共同世話役： 清水奈名子・高橋若菜

アドバイザー：重田康博

メンバー： 阪本公美子

研究協力者： 石垣勝（CMPS研究員）

津田勝憲（CMPS研究員）

関係団体： 栃木避難者母の会

学外連携者： 原口弥生（茨城大学）

西村淑子（群馬大学）

田口卓臣（中央大学）

## 研究分野

1. 栃木県内の被災者・市民社会研究
2. 新潟県内の被災者・広域避難支援研究
3. 教育・発信

## 活動内容

研究会・シンポジウム開催、研究調査、論文公表、学会発表、出版など。

## 予算

科学研究費補助金 基盤C「北関東の低認知被災地における住民活動と権利回復—人間の安全保障論による分析—」（2016-20年度、研究代表者:清水奈名子）

科学研究費補助金 基盤C「福島近隣地域における地域再生と市民活動—宮城・茨城・栃木の相互比較研究—」（2016-21年度、研究代表者:嶋原 敦子）

科学研究費補助金 基盤C「北関東における原発事故被害の不可視化に抗う住民活動—権利回復を巡る課題—」（2020-2023年度、研究代表者：清水奈名子）

科学研究費補助金 基盤B「基盤語り継ぐ存在の身体性と関係性の社会学—排除と構築のオラリティ—」（2017-21年度、研究代表者:関 礼子）

科学研究費補助金 基盤B「環境国際規範のパ

ラダタイム・シフトと国内受容比較～欧州とアジアを事例として」2018-2020年度、研究代表者:高橋若菜）

## ＜公開セミナー・授業＞

2020年7月22日（水）公開授業「原発事故の教訓をどう伝えるか—放射線副読本とアーカイブ施設」（オンライン開催）講師：後藤忍（福島大学大学院共生システム理工学研究科准教授）

2020年11月23日（月）宇大生によるオンラインSDG s 映画上映会第5弾「抱く～Hug～」（海南友子監督（宇都宮大学国際学部環境と国際協力（高橋若菜）研究室との共催）清水奈名子「被害対応を自己責任化する社会を考える」（話題提供）。

## ＜公開シンポジウム＞

2021年3月26日（金）「東日本大震災から10年 原発事故被害の広域性を考える—福島近隣自治体アンケート調査報告会—」（オンライン開催）

## ＜後援＞

2021年2月20日（土）「終わりにき災害の真実を伝えたい」新聞記者お二人と避難者とのパネルディスカッション

## ＜講演・学会発表＞

清水奈名子「パンデミック下の日本の課題—人間の安全保障とジェンダーの視点から」オンライン連続セミナー＜第1回＞ジェンダー視点から考える新型コロナウイルス禍、2020年7月18日、アジア女性資料センター主催、オンライン開催。

Nanako SHIMIZU, “The Lack of Environmental Justice Beyond Regional Borders: Damages of TEPCO Nuclear Disaster in the Surrounding

Areas of Fukushima,” Association for Asian Studies-in-Asia 2020, Online, September 3rd, 2020.

#### <出版>

清水奈名子「原発事故被害を伝えていくために  
一被害の記録の必要性和困難，そして想像力」『科学』第90巻3号、245-248頁、  
2020年3月

清水奈名子「パンデミックと原発事故に共通  
する『危機の不可視化』」『fvision』No.1,  
13-17頁、2020年6月

清水奈名子「原発事故とパンデミック 多様  
性と脆弱性を受け入れる」『女のしんぶん』  
第1233号、2020年7月25日

清水奈名子「原発事故が可視化した構造的差別

ージェンダーの視点から」『ヒューマンライ  
ツ』2021年3月号、8-14頁、2021年3月

清水奈名子「3.11を心に刻んで」岩波書店編集  
部編『3.11を心に刻んで 2021』岩波ブッ  
クレット、2021年3月

高橋若菜・清水奈名子・高橋知花「看過された  
広域避難者の意向（1）―新潟・山形・秋  
田県自治体調査に実在したエビデンス」  
『宇都宮大学国際学部研究論集』第50号、  
43-62頁、2020年9月

高橋若菜・清水奈名子・高橋知花「看過された  
広域避難者の意向（2）―福島県全国調査  
と新潟・山形・秋田県調査の比較から」  
『宇都宮大学国際学部研究論集』第51号、  
43-64頁、2021年2月

基盤教育科目「3.11と学問の不確かさ」公開授業  
**「原発事故の教訓をどう伝えるか  
放射線副読本とアーカイブ施設～」**

東京電力福島第一原発事故から9年が経過した現在、事故の教訓はどのように伝えられているのでしょうか。学校教育や、事故を伝える施設における事例について学びながら考えます。

**日時：2020年7月22日（水曜日）16：00-17：30**

**講師：後藤忍先生（福島大学大学院共生システム理工学研究科准教授）**

開催方法：Zoomを使ってオンラインで行います

参加方法：履修生以外で聴講を希望される方は、7月21日火曜日までに下記のメールアドレスにご連絡ください。参加するために必要な情報をお知らせします。

申込・問合せ先：nshimizu@cc.utsunomiya-u.ac.jp 国際学部准教授 清水奈名子宛て



写真出典：文部科学省サイトより  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shuppan/sonota/attach/1409776.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/attach/1409776.htm)

公開シンポジウム  
東日本大震災から10年  
**原発事故被害の広域性を考える**

一宮城・茨城・栃木・自治体アンケート  
調査結果報告会一

日付：2021年3月26日（金）

オンライン開催（Zoomミーティング）

時間：13:30～15:30（13:00以降入室可能）

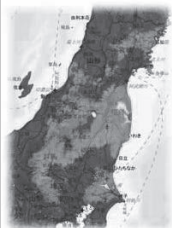
参加方法：参加を希望される方は、3月24日（水）までに以下のURLまたはQRコードから事前申し込みをお願いします。3月25日（木）にZoomミーティング情報を登録していただいたメール宛にお知らせします。



<https://forms.gle/xPWpKF6cKufQPWVU6>

お問い合わせ：nshimizu【@】cc.utsunomiya-u.ac.jp（清水奈名子宛）

※【@】を@に変えてお送りください



東京電力福島第一原子力発電所事故によって、放射性物質は県境を越えて広域に拡散されました。あれから10年、福島近隣地域は原発事故被害にどう向き合ってきたのでしょうか。

茨城県、栃木県、宮城県の市町村を対象に実施したアンケート調査結果から、原子力災害がもたらす広域性について、あらためて考えてみたいと思います。

**<プログラム>**

**第I部 調査結果報告**

宮城県 鳴原敦子

（東北大学大学院農学研究科学術研究員）

茨城県 原口弥生

（茨城大学人文社会科学部教授）

栃木県 清水奈名子

（宇都宮大学国際学部准教授）

**第II部 討論と質疑応答**

コメンテーター

西田奈保子

（福島大学行政政策学類准教授）

高橋若菜

（宇都宮大学国際学部教授）

総合司会：蓮井誠一郎

（茨城大学人文社会科学部教授）

画像出典：「放射線量等分布マップ拡大サイト/地理院地図」

本企画は、JSPS科研費 JP16K12368並びに17K12632の助成を受けたものです。